

富山県道路メンテナンス会議

設立趣意書

我が国の道路施設は、昭和30年代後半からの高度経済成長期に集中的に整備され、急速に高齢化が進むことが確実である。今後、これらの補修や更新を行う必要が急激に高まってくることが見込まれており、国、地方ともに厳しい財政状況にある中、これら高齢化が進む施設に対し、いかに的確に対応していくかが重要な課題となっている。

このような状況の下、平成26年4月14日には社会資本整備審議会道路分科会が最後の警告として、今すぐ本格的なメンテナンスに舵を切るよう、「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」を建議した。提言ではメンテナンスサイクルを回す体制として、都道府県ごとに道路管理者で構成される組織を構築するよう求めている。

本会議は、富山県内における道路施設の点検や補修・更新等について、高速道路、国道、県道、市町村道のすべての道路管理者が相互に連絡・調整を行い、関連する各種情報の共有により、その実態を把握したうえで、国民の理解を得ながら、協力して道路施設の老朽化対策の強化を図ることを目的として設置するものである。

平成26年5月27日